

「山田新一」について

これが油絵というような重厚な油絵を描き続けました。美しい色彩と肉厚な絵肌、骨太い画面構成、油彩画の魅力を十分に観る人に伝えてくれます。残念ながら私はお会いする機会はありませんでした。

「古川重明」について

私が教職に就いた頃も御本人も教職におられたので、作品は何枚か見ています。実に丁寧で重厚な水彩画でした。

「サイタ亨」について

熊本県の天草出身です。なぜ西都で医師をされたのかと思つていますが、台湾画壇の塩月桃甫に魅せられて敗戦後台湾から引き揚げる時に塩月の故郷・西都市で開業されたのだそうです。高鍋美術館には彼の代表作をまとめて収蔵しています。非常にモダンで密度の高い水彩画です。

「新原峻吉」について

作品が示すように、野太くおらかで、作品そのもののようなスケールの大きい人物でした。まだ県立美術館がなかった頃に先頭にあつて美術館建設の運動をされたり、県の美術協会設立に寄与されたりするなど、教職にあつても学校教育にとどまらず広く地域に美術を定着しようとした人望のあるリーダーでした。

私の宮崎個展の初日が台風だったことがあります。嵐の中を最初に会場に飛び込んで下さったのが新原さんです。新聞評に「七十点の作品の総合数は約二千八百号で本県としては破天荒の個展」と書いてくださったことがあります。

「出水勝利」について

宮崎師範学校が、宮崎大学になった頃から一貫して美術教育に当

たられたので美術教官としての顔の方が強いようにも思われます。図二の絵が示すように温かみのある人柄で、県内では、彼の指導を受けた教育関係者は大変な数にのぼります。

「長谷場三夫」について

温厚で誠実なお人柄でした。けれん味の無い作品で作品そのままの人柄です。沖縄女子師範学校のとときの生徒の娘さんが歌手の中曽根美樹で彼女を養女にするはずだったんだと言つておられました。大宮高校勤務が長く、ご存知の方も多いと思います。

「末原晴人」について

達者な人で洒落た絵を描いておられました。私が高校の美術教師になった時、末原・岩下・長谷場・野口・松井・雨田・黒木亨といった先生方には大変お世話になったものです。

「黒木貞雄」について

骨太の木版画家です。県内の風物、郷土芸能を主要テーマに作品を作つておられました。印象に残っていることは、東京都立美術館でご一緒した時に、自分は敵地に乗り込むつもりでここに来ると言つておられたことです。平原美夫先生とは宮崎師範の同期生です。平原先生の延岡個展の時に黒木さんがお見えにならないので、私が自宅へ伺つたのですが、その時に、「平原君が三十年野球をやつて遊んでいて、野球を止めたので絵を描いた。自分がこのこ観に行ったら自分の三十年はなんだったのかという気持ちになるから行かなかつた。」と言われました。

「岩下資治」について

体型と同じくがっちりした絵を描いておられます。県内にいる時の作品はあまり見ていませんが、退職後に上京されてからは花畑や

そこに働く人々の姿を重厚に描き出しておられます。

### 「岩尾信夫」について

自身も小学校の教壇に立たれた経験があり、大変優れた美術教師育成の大学教官でした。先生を慕う教え子は沢山います。講習会とか研究会の講師を気軽に引き受けられる気さくで温厚な方でした。高千穂時代に我が家に一泊してもらいましたが、その夜ビールを飲みすぎて完全にダウンされました。翌日は二日酔いでふらふらでしたが、高千穂小学校で見事な模範授業をされました。

### 「野口徳次」について

人間的に非常に幅広いものを持っておられた方でした。美術学校を出られて新聞社や映画会社に勤められた経験等も関係しておられたのかも知れません。人脈も豊富で特に都城市立美術館を育てられた功績は、大きいと思います。

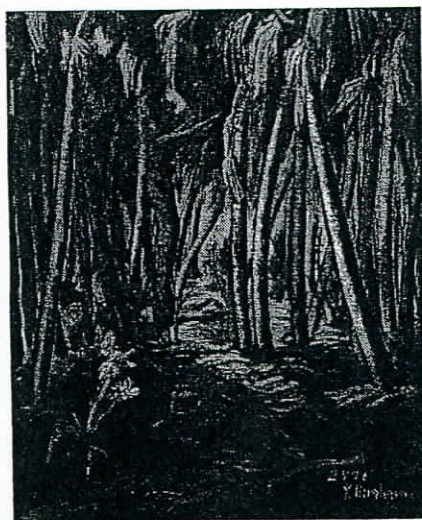
### 「吉加江京司」について

上京されるまでは延岡に居住されていて、私も交流がありました。母子像を良く描いていましたが、それをおして命・社会問題、戦争などを表現したりベラリストでした。

### 「瑛九」について

宮崎県出身洋画家では、全国的に最も知名度の高いと言えます。お会いしたことはありませんが、彼の父親と私の祖父が医者仲間でも近かった関係からか、彼の具象の作品が祖父の家にかかっていました。新しい試みとしてフォト・デッサンを始め、彼の美術理論に共鳴した若手の中から日本画壇の一翼をになう画家が出ています。

### 「平原美夫」について



「ピロ-樹」1936 (昭和11)

この作品は、永らく県の教育会館にあったものです。昭和十一年に文展（文部省展覧会今の日展に相当するもの）で宮崎県から洋画で初入選した作品です。非常に描写力に優れた先生で高鍋駅にかけられた尾鈴山の絵は、空が本物のように描いてあると思いました。その絵を見るためにだけに何度も高鍋駅舎まで行った思い出があります。私は随分後まで平原先生ほど絵の上手い人はいないと思っていました。

### 「小野彦三郎」について

お会いしたことはないのですが、大和絵風の作風は好きでした。

### 「井上自助」について

私が学生時代下宿していた家に井上自助の絵がかけてあり、宮崎に帰ってから県内で妻中学校の美術教師をしておられたことを知り親しみを感じています。戦前は中等学校の美術の先生は全国規模の人事交流が行われており、私が教職についた昭和三十二年もたくさんさんの東京美術学校卒の先生がおられました。退職後は、都城の野口徳次先生や宮崎の雨田正先生、それに京都絵専出の黒木亮先生以

外は郷里に帰られるか東京に出られたりしました。

### 「宮崎正二」について

このような子供のような絵は、なかなか描けないものです。日向市を中心に勢力的に地域文化向上に取り組まれた人です。宮日展の審査の時にたまたま居合わせたのですが二枚続きのキャンバスを離すなど注意書がしてありました。審査員の山口長男画伯が「これは落書である。落書をしたい欲求はだれにでもあるが、落書は人に見せるものではない」と言われたのが印象的です。

### 「河野 扶」について

私の大先輩です。有田四郎が延岡中学校の美術教師で、河野さんは高鍋中学校の授業が終ると毎日延岡中学校まで有田先生に絵を習いに通われたそうです。東京美術学校を受験されたが不合格で結果として東大の数学に進学されたとのことでした。卒業後大手保険会社に入社されるのですが「こんな楽をしていると絵が描けない。」との想いから（この考えは河野扶の生涯を通して生きていた。）職業を変えられます。戦後、毎日新聞社が天皇制の論文を募集した時に一席になって破格の待遇で毎日新聞に迎えるという話があったそうです。その時は高校の教師だったが少し気持ちが傾いたと話しておられました。画学生のようなひたむきさを終世持ち続けた方で、私も自分の戒めのためにアトリエに河野さんの絵を一点かけています。非常に律儀な方でした。

### 「松井富民夫」について

温厚で穏やかな人柄で作品もそのようなしっとりとした作品を描いておられます。

### 「雨田 正」について

オーソドックスで透明水彩のお手本のような何のてらいも無い歯切れの良い絵です。県の高校野球に永いことタッチしておられたが、器用な方でスコアボードの字など全て自分で書いておられました。

### 「吉田 敏」について

雨田先生とは対照的に実におおらかな、骨太のどっしりとした不透明水彩の秀作を多く残しておられます。

### 「辻野精一」について

高鍋出身ということで親しくしていただき、私が高鍋町美術館長時代に代表作を三十五点寄贈していただきました。ミロにかなり魅かれたものもあるように感じられます。和紙などを併用し色彩も東洋風です。

### 「太佐豊春」について

昭和三十年代に美術雑誌「みづえ」か「アトリエ」に、抽象性の高い密度の濃い素晴らしい作品を発表しておられたのが印象に残ります。理論家で前衛的なシャープな作品を制作されます。

### 「仲矢勝好」について

物語性のある丹念な作品を作っておられたと思います。宮日展の無鑑査になられたのですが直後に他界されました。

### 「杉下昭明」について

野口徳次先生の甥ということで作品とともに印象に残った人物です。木の集団「林」を好んで題材に取り上げ、けれん味の無い風景作品を作り上げられました。